

江戸春

山崎偶作

上

一夜千両

通油町

江戸



へ13
2946
21



2946
21

二月二十日

西川雪天州

山東京傳題

尻の穴のひらいた江戸の
千両の大門もいざばあざらうさざら
目力物堅魚も食をねどら食さらん
廿日余り四十両二分のくもさ
可ありけあねも金はふも金
生れと殺れよのたぐひ泥亀と放
夢げをねる世の中はうひあくつふ
金どとくく

えどめ

山東京傳題



その刃をかきかへて
 ありとるゆのりまぐその
 赤舟の老子あまきりめさげんと
 ある二月三日の夕方赤舟の老と
 びびおしれくまをさつて
 女をうり子二百ぬ
 をんとう子又百ぬ
 代子二百ぬ
 下女子三十ぬ
 子七ぬ
 二分
 めいさぬ
 子又十ぬ
 りきまぬ
 又百ぬ
 むすぬ
 子ぬ
 他文字
 小判也
 太の金と
 うんや中
 りりしてつ
 くらこののま
 一子のま
 ちてつら
 あけちのふとあひづるあの一
 ままらてりかどとちの十ヤニ

まどろのそる



のいりさ
 若とまおめ
 ひんぱりくめ
 ちか
 いナア
 ちふ物九や
 しつらん
 長去ちらん
 今の世の中
 金もかめ
 百ぬ
 らんや中
 今い
 つらん
 まどろ
 くらせ
 うて
 田系
 の令
 どのひ

山東京傳作
 下
 江戸
 子夜
 通油町




あまのり
 のさのりてあまのり
 ぐさのりてあまのり
 どまてあまのり
 ころてあまのり
 どはりてあまのり
 りあまのり

あまのり
 のさのり
 ぐさのり
 どまて
 ころて
 どはり
 りあま

あまのり
 のさのり
 ぐさのり
 どまて
 ころて
 どはり
 りあま

あまのり
 のさのり
 ぐさのり
 どまて
 ころて
 どはり
 りあま



あまのり
 のさのり
 ぐさのり
 どまて
 ころて
 どはり
 りあま

あまのり
 のさのり
 ぐさのり
 どまて
 ころて
 どはり
 りあま

あまのり
 のさのり
 ぐさのり
 どまて
 ころて
 どはり
 りあま

